平和の聖マリア教会 の「いつくしみの 扉」

大刺書『イエス・キリスト一父のいつくしみのみ顔』で、教皇フランシのスコは、特別聖年に多くの人が神望いることを再発見することをあることを表現で、「います。その大聖堂で、「いっさっためにしれまった。「そこから入る人はだれであるしと希望を与るしとができるでした。 「そこからしと希望を与るした。 「そこからしと希望を与るした。 を経験することができるでしまっ。

聖ホセマリアと福者アルバロの聖遺物を納める「平和の聖マリア教会」、オプス・デイ属人区長教会の「いつくしみの扉」は2015年12月13日に開かれました。

この教会を訪れる人は、いつくしみの特別聖年に際して与えられる全免償を、大勅書に説明された条件を満たすことで受けることができます。 この免償は自分の罪の有限の罰のた め、また死者のために代償として捧 げることができます。

免償に関する一般規定と「いつくしみの扉」に関する定めによって、教会や大聖堂で、特別聖年の間に、次のわざを果たす信者は全免償を受けることができます。

- 1. 巡礼者として平和の聖マリア教会を訪れ、その聖なる扉(いつくしみの扉)を通り、何らか聖なる儀式に参列すること(あるいは、いつくしみに関する振り返りのもとで、しばらく祈りを捧げること)。
- 2. 使徒信条(信仰宣言)を唱え、 教皇ご自身および教皇の意向のため に祈ること(例えば、「主の祈り」 を唱える)。また、いつくしみ深い イエスへの祈りで終えることがすす められています(例えば、「いつく しみ深いイエスよ、御身に信頼いた します」と唱える)。

3. 最後に、全免償を受けるための一般の条件を果たすこと。つまり、ゆるしの秘跡に与り、聖体拝領をする。また、小罪を含むすべての罪を忌み嫌うこと。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/heiwano-seimaria-kyoukai/ (2025/11/19)